【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和４年度第３学年　国語科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和４年５月実施の学力調査の正答率について，基礎問題では 78.6 パーセント，活用問題では 46.4 パーセントだった。基礎問題は目標値を上回っていたが活用問題では目標値を下回っている。学習した事項を活用する能力に課題がある。

・令和４年５月実施の学力調査の正答率について，「手紙のへんじを書く」「文しょうを書く」という問題の正答率はそれぞれ 28.6 パーセント，38.1 パーセントと，目標値を大きく下回っていた。問題を解く順序や時間配分等の問題もあるが，事柄の順序に沿って構成を考えながら書いたり，自分の思いや考えが明確になるように文章を書いたりするということに課題があると言える。

・上記の傾向は令和３年度実施の学力調査の状況と大きな変化はない。しかし，「読むこと」や「主体的に学習に取り組む態度」などの項目は，令和４年度の調査では大きく改善している。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和２年度授業改善推進プラン記載内容

・令和２年度の授業改善推進プランでは，「文字や文章を正しく読む」ということについては記載があるものの，「書くこと」については課題として挙がっていない。これは小学校第１学年段階において，文や文章を書くという活動がそもそも少なく，課題として顕在化していないことが理由として考えられる。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・国語科に限らず，毎授業，学習の振り返りをノートに記載している。授業を通して分かったこと，考えたこと，疑問に思ったこと，次時の学習へのめあてなどを書かせ，文法的な修正箇所がある場合には，赤を入れた上で個別に呼び，指導している。

・週１回程度，作文の宿題を出している。文法的な修正箇所がある場合には，赤を入れた上で個別に呼び，指導している。

・夏休みの宿題として読書感想文を出している。その際，話型として感想文の型を指導し，「書くこと」に対する抵抗感を減らして取り組むことができるようにしている。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①学習の振り返りや宿題での短作文指導。	❶２学期以降のノートや宿題で取り組んだ短作文において，文法的な誤りがないかどうかを確かめる。
②話型を示した上で取り組ませる作文活動。	❷話型どおりに，かつ文法的に正しく書くことができているかを，２学期以降の作文活動の取り組みごとに確認する。

４．検証結果（成果と課題）

＜成果＞

・作文指導を通して，自分の思いや考えを書くことができるようになってきた。

・文章中の誤字脱字，文のねじれ等を自分自身で見付けることができるようになってきている。

＜課題＞

・文章中の間違いが，はじめから少なく書くことができるようになるとよい。

５．令和５年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

・児童それぞれの理解力に差が見られる。個別の支援を通して，どの児童にも課題を解決する力を身に付ける。

・未知の問題に対し，問われていることを捉え的確に答える力にまだ課題がある。何が問われているのかを明らかにし，問題と正対することができる力を育ませたい。

６．令和５年度（次学年）末に期待する児童の姿

・問われていることを理解し，自分の思いや考えを的確に表現することができる児童。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和４年度第３学年　社会科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和４年度の学力調査において，第３学年社会科の調査はない。

・写真資料から課題を読み取ったり，地図などから課題を見いだしたりする力に課題がある。

・身近な地域の学習に対して，地理的に学ぶことが難しいテーマが存在する。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和２年度授業改善推進プラン記載内容

・令和２年度，社会科は未修学である。

・令和２年度「生活科」において，「学校や地域について関心をもつ」ことに課題があり，「学校探検で多くの人と関わったり，地域の行事を話題に取り上げたりする」という改善策が示されている。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・写真や地図から課題を見出すことができるよう，複数の資料を比較する活動を多く取り入れている。

・地理的に学ぶことが難しいテーマについては，オンラインでの資料をたくさん用意している。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①比較検討がしやすい複数の資料を用意し，資料から課題を見いだすことができるようにする。

②オンラインを活用した資料を用意し，地域的に難しいテーマの学習内容でも理解を確実にできるようにする。

＜検証方法＞

❶年間を通して，テストの「資料の活用」の項目において，B 基準以上を達成している。

❷年間を通して，「店ではたらく人」「火事からくらしを守る」等のテストの「知識・理解」の項目において，B 基準以上を達成している。

４．検証結果（成果と課題）

＜成果＞

・「資料の活用」の項目においておおむね B 基準を達成することができた。

・オンライン資料を活用し，様々な地域の産業に触れ，比較しながら学習を進めることができた。

＜課題＞

・「知識・理解」の項目の定着に課題が残った。

５．令和５年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事柄

・設定したそれぞれの学習課題に対し，学習のまとめを十分に行い，「知識・理解」の定着を確実にすることが求められる。

・ペーパーテスト等で，身に付いた「知識・理解」を的確に表現することができるようにする必要がある。

６．令和５年度（次学年）末に期待する児童の姿

・資料を活用しながら情報を適切に調べ，まとめることができる児童。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和４年度第３学年　算数科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和４年５月実施の学力調査の正答率について，「ひょうやグラフ」が 64.3 パーセントと，目標値をやや下回っている。領域としては「データの活用」領域が 64.3 パーセントであり，目標値をやや下回っている。ただし，当該問題は学力調査における最終問題であり，時間配分を誤って問題を解ききることができず無回答となった児童の割合が一定数いた。本校は学年の母数が少なく，正答率がたまたま目標値を下回ってしまった可能性も考えられる。この場合，問題を時間内に解ききるための“題意を読み取る力”が課題となってくる。

・「ひょうやグラフ」以外については，おおむね目標値とほぼ同じか，若干上回っている。しかし，各問題に対しての誤答の割合が一定数存在することから，学習内容の定着度合いについて，児童間に開きがあることが考えられる。

・令和３年度実施の学力調査の正答率を見ると，「とけい」の項目に課題があった。令和４年度の「時こくと時間」の項目は，目標値を上回っている。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和２年度授業改善推進プラン記載内容

・「文章から題意を読み取り，立式する」という課題に対して，「具体物や図を用いて，文章の場面が具体的にイメージできるよう支援する」と記載されている。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・算数科に限らず，文章を読む際には主語，述語が明確になるよう声かけをしたり，“何が問われているか”が分かる箇所に対してアンダーラインを引かせたりするなどの支援を行っている。

・絵や図，写真などを提示して，文章に書かれている状況を正しく把握することができるよう支援している。

・文章を読み，その場面を線分図，数直線などの図に自力で書き表す時間を設定している。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①“何が問われているか”を明確にするための支援。	❶２学期以降のノートやテストの文章問題において，問われている箇所に自分でアンダーラインを引くことができているかどうかを見取る。
②問題解決に図などを活用することの習慣化。	❷２学期以降のノートやテストの余白の使い方等から見取る。

４．検証結果（成果と課題）

＜成果＞

・問われていることを見いだすことが少しずつできるようになってきた。

・計算過程を残し，自ら間違いに気付く力を伸ばすことができた。

＜課題＞

・未知の問題に対し，問われていることを理解することに課題がある。

・図を描くことに抵抗感を示す児童がいる。

５．令和５年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

・図などを活用する力を伸ばすことで，問われていることを的確に理解したり，必要な情報を整理したりすることが期待できる。さらに伸ばしていけるとよい。

・時間が経つと解法を忘れてしまう場面が見られる。繰り返し指導し，思い出せるようにするとよい。

６．令和５年度（次学年）末に期待する児童の姿

・未知の問題に対しても，問われていることを理解し，図などを活用しながら解こうとする児童。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和４年度第３学年　理科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和４年度の学力調査において，第３学年理科の調査はない。

・既知の事象においても，科学的な手順を踏まえて検証しようとする態度に課題がある。

・確かめたいことを検証する手段として，正しい実験手順を組み上げる力に課題がある。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和２年度授業改善推進プラン記載内容

・令和２年度，理科は未修学である。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・科学的に検証されていないことによる矛盾や勘違いを提示して揺さぶり，科学的な検証の価値を実感できるようにする。

・科学的な検証手順を示し，その手順に沿って検証していくことを習慣化させる。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①矛盾や勘違いを例示することで，科学的な検証の価値を見いだすことができるようにする。

②科学的な検証を習慣化させる。

＜検証方法＞

❶２学期末，３学期末にアンケートを実施し，回答の変化を検証する。

❷２学期以降の学習場面において，教師が提示しなくても手順に沿って検証を進めようとしているかどうかを見取る。

４．検証結果（成果と課題）

＜成果＞

・矛盾や勘違い等の揺さぶりを受けて，科学的な検証を意欲的に取り組むことができた。

・児童自らが実験手順を考え，科学的な検証を進めようとする姿が見られた。

＜課題＞

・ペーパーテスト等の解答で，理解していても誤答をしてしまうことがある。

５．令和５年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

・ペーパーテスト等の解き方を繰り返し指導し，身に付けた「知識・理解」を的確に表現することができるようにする必要がある。

６．令和５年度（次学年）末に期待する児童の姿

・目的意識をもって実験手順を自ら考え，科学的な検証を的確に進めることができる児童。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和４年度第３学年　音楽科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和４年度の「学びのスタンダード授業アンケート」において「授業が好き」と答えた児童はＡ８５％，Ｂ１５％となっており音楽への関心が高い。しかし，「学習したことをわかっている」という項目についてはＡ７０％，Ｂ１５％，Ｃ１５％となっている。令和２年度にさかのぼるとこの２つの項目については８５％の児童がＡ（はい）と答えている。歌唱表現はとても優れており，どの学年よりも意欲をもって歌う。しかし，器楽の単元になると，説明を聞いて演奏するが，音は合っているが運指を守らない，正しい姿勢で演奏しないなどの課題がある。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和２年度授業改善推進プラン記載内容

〇楽しく音楽に関わり，音楽表現を楽しむために必要な基礎的な技能

・楽しくできる音階練習や，馴染みのある歌を繰り返し練習する。

・リズム遊びで，交流する場面を多く設定する。言葉による指導とＤＶＤ視聴を併用して，内容を分かりやすくする。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

歌唱分野については，おおむね達成しており，良い部分を伸ばしていくためにも引き続き，なじみのある歌を繰り返し歌唱していく。また，歌唱に関してはさらに発展させ，少し難易度の高い曲も挑戦し，「できる」を体感させ，音楽に対する興味を維持させる。過去２年間の音楽の授業アンケートを分析した結果，小学３年生が「学習したことをわかっている」から「わからなくなってくる」の分岐点のため，音楽の知識や技能に関しては丁寧な指導が必要である。器楽に関してはお手本となるＤＶＤを見せながら，正しい運指や正しい姿勢をしないとこんな音になるなど実験的に見せて，そして自分を振り返らせ，「できる」を体感させる。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①学期ごとに行う授業アンケート	❶学期ごとに行う授業アンケートの内容の分析
②授業内の実技発表	❷授業内での実技発表の分析

４．検証結果（成果と課題）

＜成果＞

歌唱に対する気持ちが強く，きれいな発声を意識するなど，意欲的に活動していた。鑑賞分野においては一人一人の発言に対して，否定せず，「そう聴こえる」など，意欲的に発言していた。

＜課題＞

器楽の活動になると，苦手意識が働き，消極的な発言が目立つようになる。

５．令和５年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

・歌唱分野は意欲的に取り組むが，器楽のリコーダーになると苦手意識をもってしまうので，もう一度，基礎に戻り，運指や息の使い方を確認し，「わかる」から「できる」を体感できるようにする。

６．令和５年度（次学年）末に期待する児童の姿

・歌唱も器楽もバランスよく意欲的に活動できる児童。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和４年度第３学年　図画工作科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和４年度１学期授業評価アンケートでは，「図画工作科の授業が好きか」という項目に関して，７名中６名が「はい」，１名が「どちらかというといいえ」と答え，「学習したことを理解しているか」という項目に関しては，７名中５名が「はい」，２名が「どちらかというといいえ」と答えている。以上の調査や授業観察の結果から，授業への興味・関心は高いが，学習内容の確実な定着については，改善が図られるとよいと考えられる。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和２年度授業改善推進プラン記載内容

・【課題】①自己の表現したいものを様々な方法で表現する。

【改善策】①表現することで，新たな表現方法に出会う楽しさを味わえる学習環境を計画する。

【評価】①単元のなかで，友達との共同作品を作る機会を図り，気軽に表現方法を模倣できる環境にしたことで，表現を応用しようとする姿勢が身に付いてきた。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・表現活動においては，手や体全体を十分に働かせ材料や用具を使えるように，図工室だけでなく，廊下や中庭，校庭などの母島小中学校の環境を活かして，創造的につくったり表したりできるように指導を行う。

・表現活動における造形遊びの過程や振り返りにおいて，児童自らがタブレット端末やデジタルカメラを活用することで，図画工作科の学習におけるメタ認知能力を高める。

・アナログの造形日記による振り返りとデジタルのタブレット端末を活用した振り返りをハイブリット化し，造形的な視点による創造性の涵養を図る。データに関しては，評価評定に活かし，指導と評価の一体化及び授業改善に役立てる。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①年間２回の授業評価アンケートの実施	❶年間２回の授業評価アンケートの実施内容分析
②日々の表現及び鑑賞活動の授業観察及び授業改善	❷授業デザインの学期ごとの検討及び指導と評価の一体化を踏まえた次年度年間指導計画の作成

４．検証結果（成果と課題）

＜成果＞

・図画工作科の学習方法や目指すべき資質・能力を発達の段階に応じて示すことが日々の授業でできているため，効果的に学習を進めることができ，創造的な作品づくりや鑑賞活動につながった。

＜課題＞

・小学校の指導経験がない中学校教員が児童の実態を確実に把握することは専科教員に多大な負担や教材研究が必要であるため，校務や報告書等の記述内容の精選を行い，効果的な教材研究をする時間を捻出することが必要になるだろう。

５．令和５年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

・児童のことを一番近くで指導し，理解している専科教員が，児童がより個性を生かした創造活動に取り組めるように，児童の実態に応じた弾力的な学習を引き続き展開していくとよいのではないだろうか。よって，発達の特性に応じた題材を常に検討しながら，他教科との教員とも連携して，それぞれの学年において育成する資質・能力を効果的に身に付けられるように指導計画を常に修正していくことが大切である。

６．令和５年度（次学年）末に期待する児童の姿

・児童が創造することの価値を捉え，自己や他者の作品などに表れている創造性をさらに尊重する態度の形成。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和４年度第３学年　体育科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和４年度１学期授業評価アンケートでは，「体育科の授業は分かりやすいか」という項目に関して，全ての児童が肯定的な回答をしている。「体育科の授業が好きか」という項目において，否定的な回答をしている児童も見られた。主体的に学習に取り組んでいくことができるよう，授業改善を行っていくことが必要である。

・令和４年６月実施の新体力テストにおいては，全ての分野で高い記録を示している児童が複数いる一方，「20m シャトルラン」「ソフトボール投げ」等で記録が伸び悩んでいる児童が散見された。このことから，児童によって体力に開きがあることが分かる。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和２年度授業改善推進プラン記載内容

・令和２年度では，「楽しく運動に関わり，活動に意欲をもつ」ことに課題があり，「ゲーム的な要素を取り入れた運動遊びを多く設定する」という改善策が示されている。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・自己肯定感を高めることができるよう，よい点をその場ですぐに取り上げ，称賛する。

・誰でも取り組める，易しいルールのゲームを設定する。

・児童がお互いによかったところを称賛し合える場を設定する。

・分かりやすい技能のポイントを，複数用意し，自分に合ったものを選択できるようにする。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①自己肯定感を高める声掛けや授業設計。	❶年度末にアンケートを取り，肯定的な回答の増減を見取る。
②分かりやすい技能ポイントの提示。	❷年度末にアンケートを取り，肯定的な回答の増減を見取る。

４．検証結果（成果と課題）

＜成果＞

・運動の特性を踏まえた易しいルールのゲームを設定することで，どの児童も意欲的に活動に取り組むことができた。

・技能ポイントを精選し，明確に示したことで，目的意識をもって授業に取り組むことができた。

＜課題＞

・単元内容によって，児童の意欲や苦手意識に差が見られた。

５．令和５年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項

・どの児童も学習に意欲的に取り組むことができるよう，運動の特性を踏まえた易しいルールのゲームを設定することが非常に効果的であった。次年度以降も継続して取り組ませていけるとよい。

６．令和５年度（次学年）末に期待する児童の姿

・学習に意欲的に取り組み，技能・表現の力を着実に身に付けていくことができる児童。